



自己実現への道

第63回 ー生きるのが楽しくなる願望実現の秘訣ー （再掲）

人生は苦難に満ちたものと、多くの人々は考えている。そのため、成功したいと思いながらも、早くからあきらめてしまう人が多い。

だが、人生は希望なくしては生きられない。そこで、多くの人々はあきらめきれず、また、あきらめた多くの人々も悔しさにさいなまれる。

だからこそ、多少の苦しみがあっても、目標に向かって進んでいく人生に人々は憧れる。たとえ条件が悪くとも、なんとかその難関を突破していきたいと、かなりの人々が心の底で思っているのだ。

「断じて行えば鬼神もついに退いて道をゆずる」ということわざがある。この言葉に共鳴する人もいるだろうが、現代教育を受けた人々は、「現実には厳しいから無理だ」というかも知れない。多くの人々は、物質的に

恵まれ、多くの知識や情報を与えられているが、一面では孤独であり、精神的な激励に飢えている。

また、有意義な仕事は難しいと思いながら、希望と憧れを捨てることもできない。

そこで、「君、それはできるよ、きっと」と力強く、わかりやすく励ましてくれる声を欲している。

私は会社を辞め、新たに会社を設立したときに、この人の書いたこの本に励まされて、過酷な時期を耐え忍び、乗り越えて来ることができたと思っている。「できる！ やれば必ずできる！」という力強い激励の言葉に動かされ、苦難に耐える力を養い、艱難（かんなん）を突破する気力を培うことができた。そして、今なお彼のこの本をバイブルのように、自分の傍において、毎日を生きている。ロバート・シュラーの言葉は、単に精神力の養成に留まっているだけではなく、実際に実現できる具体的な秘訣として存在しているからだ。その秘訣とは、「見えざる真理」、仏教では「実相」、キリスト教では「神」（ロバート・シュラーは牧師である）・・・「心の底から信じれば何でもできる」ということであり、敢然とぶつかってゆく勇気と、苦しみに耐える強さが要求される。「神は自ら助けるものを助く」ということも真実である。「私は苦しみは嫌だ」という人が多い。だがこの場合の苦しみは、そのことを知っていれば、一転して歓喜へと転化できるものであり、その体験によって人生が躍動し、面白くなってゆくのである。このように前進する勇気のない人は、死ぬまであきらめて我慢するという苦しみに耐えていかねばならない。どちらが真の苦しみだろうか？

前者の方がはるかにましではないか。ロバート・シュラーは多くの障害に直面しても、素晴らしい迫力で前進し、奇跡的な成果を次々勝ちとってきた。そのため、彼の文章は活き活きとしていて、読む人の心を激しく揺さぶるのである。敗北に打ちのめされた人々よ。苦境の中に悶える人々よ。さらに大きなことを望みながらも、挑む勇気のない人々よ。あなたも奇跡を演じて人生を大きく変えることができるのだ。

奇跡を起こし、あなたの人生を大きく発展させることだってできる。

これから、しばらくの間、この連載で、ロバート・シュラーの声に耳を傾け、次々に高い願望を達成し、人生を大きく飛躍させてみようではないか。

〈MIKO〉

□ 参考文献：Tough Minded Faith For Tender Hearted People by Robert H Schuller より